

災害対策検討支援ツールキットの活用パターンの構築

(研究期間：平成24年度～)

道路構造物研究部 道路地震防災研究室 主任研究官 横田 昭人



(キーワード) ツールキット、災害、災害訓練

1. はじめに

我が国では地震、風水害等様々な災害に襲われている。これら災害の発生を想定した事前訓練等により備えを行っておくことが極めて重要になる。

国総研では、災害の発生による被害想定、リスク評価、対策を一連の流れで検討する各種ツールをひとまとめにした災害対策検討支援ツールキット（以下、ツールキット）の開発を行い、各機関の研修、訓練等の活用を踏まえ適宜、改良や活用方法の検討を行っている。今回平成30年度における活用検討について報告する。

2. ツールキットの概要

ツールキットは、以下の①～④の手順で進める災害訓練である。

- ①「インフラ被害整理」では、地震や風水害等の災害を想定し、発生するインフラ被害を管内図等の地図上に列記し整理する。
- ②「災害シナリオの構築」では、インフラ被害によって発生する社会、経済活動への影響を整理する。
- ③「リスク評価」では、インフラ被害のリスクを「起こりやすさ」と「人命、経済に与える影響の深刻さ」から評価し、重大性を整理する。
- ④「対策検討」では、個々の被害に対して対策内容を検討し、難易度、優先度を整理する。

3. ツールキットの活用

ツールキットの概要で示した全内容を実施すると概ね1日の時間が必要である。各種ツールを利用し訓練時間や訓練目的に応じた活用パターンの構築を進めている。

そこで今年度は、訓練時間を2時間に設定し、表に示す構成で、以下①～③を目的とした活用パターンを構築した。

表 活用パターンの構成

時間	項目	概要
約20分	【事務局】訓練概要の説明	・状況設定および訓練手順の説明
約60分	【各班】ツールキット概要①、②の内容演習 災害時の被害状況のイメージ 社会、経済活動への影響をイメージ	・個別班に分かれ、地震発生時に管内でどのような被害が発生するのか、また、発生した被害はどのような支障をもたらすのか、地図を見ながら発想し、整理
約10分	【全体】発表(1班あたり5分程度) ※班数により代表班を選出	・班毎に、以下の点について発表 >発想した被害の様相 >他分野に波及が懸念される被害のうち、特に懸念する被害
約30分	【事務局】講評、ツールキットの説明 ツールキット概要③、④の説明	・各班の成果に対して講評。 ・体系化されたリスクマネジメントの考え方について概説 ・ツールキットを活用した検討可能事項を説明

- ①災害対応時における考え方を醸成する。
- ②自らの管理するインフラが被災し、社会、経済等に関する影響が多く発生することを理解させる。
- ③災害時には複数のインフラや多分野のインフラ被害が相互に影響し、災害対応時はそれらを踏まえた総合的な判断による行動が必要なことを理解させる。

関東地方整備局で事務所係長級5～6年目の職員を対象に行われる技術研修で活用パターンの実証を行った。写真は研修の状況である。



写真 災害訓練技術研修の様子

事前にツールキットの説明資料、訓練の概要説明資料、被災発生地区等を配布したことで予め理解が深まり、短時間でも活発な討議が繰り広げられ活用パターンの実用性が確認できた。

4. おわりに

国総研では、今後、様々な機関においてツールキットの活用、普及促進を図るとともに、活用結果から必要な改良、活用パターンの検討を行いさらに使いやすいツールキットを構築していく予定である。